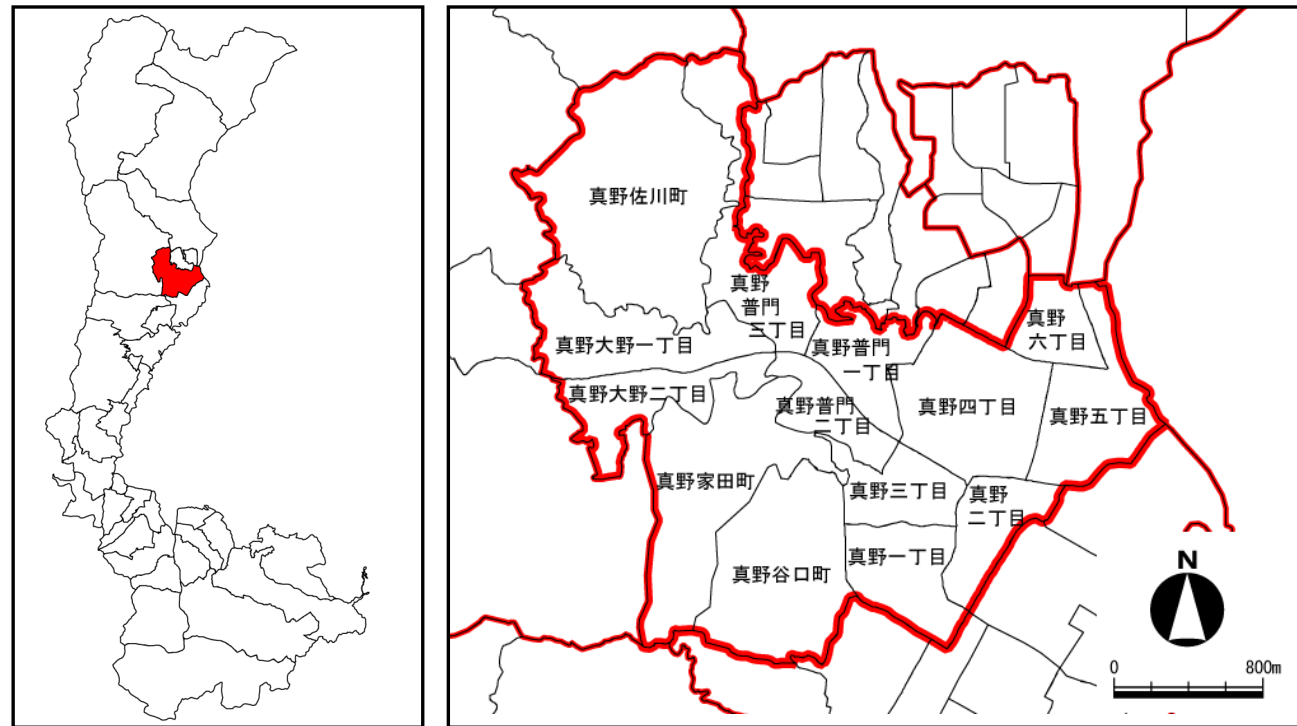


■ 学区の概況



<町丁名>

真野佐川町、真野家田町、真野谷口町、真野一丁目、真野二丁目、真野三丁目、真野四丁目、真野五丁目、真野六丁目、真野普門一丁目、真野普門二丁目、真野普門三丁目、真野大野一丁目、真野大野二丁目

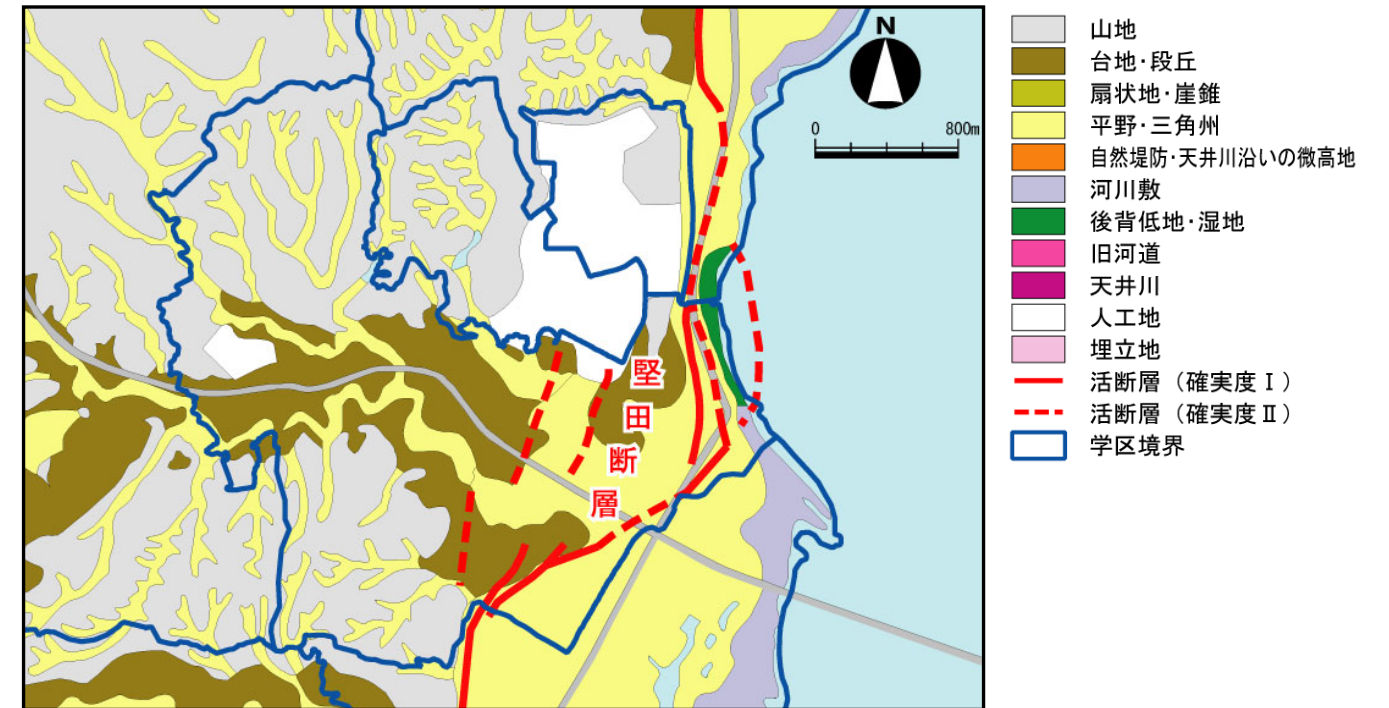
(注) 学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

<学区の特徴>

真野学区は琵琶湖に向かって広がる丘陵地で、真野川を中心として開けてきたのどかな田園地域である。学区内の地域では約 60~70 万年前のものと推定されるシガ象の化石や多くの豪族の古墳が発見されている。

真野川の河口付近はかつて深い入江となっており、すぐれた景勝地であったといわれ、平安時代から多くの歌が詠まれてきた。この地域はその後交通の要所として発展してきている。また現在の真野浜は、レジャーや心休まる湖岸として親しまれている。

■ 地形・地質の概要



(注) 図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<地形の特徴>

- 真野地域の東部は堅田丘陵からなり、西部は段丘や湖岸付近の低地からなる。
- 段丘は、真野川水系に沿った低位段丘と、地域南部の中位、高位段丘に分けられる。湖岸沿いの低地は氾濫原性低地と砂州・浜堤に細分される。真野川は低地では天井川化している。

<地質の特徴>

- 堅田丘陵は古琵琶湖層群堅田累層からなる。これは約 100 万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。

<活断層の特徴>

- 丘陵と低地の間に堅田断層の北半分が通過している。堅田断層は、木戸学区の南船路から比叡辻までのびる、長さ約 13km の活断層で、断層を挟んで相対的に西側が隆起する、縦ずれ断層である。

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度 (戸/ha) (注1)	不燃領域率 (%) (注2)	木造率 (%)	旧耐震木造建物 /木造建物 (%)
真野佐川町	50.2	97.7	82.6	80.7
真野家田町	40.7	98.3	83.7	87.8
真野谷口町	51.3	96.0	81.7	59.5
真野一丁目	59.8	76.5	77.3	30.1
真野二丁目	73.7	71.2	80.5	33.2
真野三丁目	45.7	92.4	79.1	58.8
真野四丁目	57.9	91.0	71.1	55.9
真野五丁目	65.9	66.3	81.5	32.6
真野六丁目	71.9	67.2	84.2	0.0
真野普門一丁目	46.0	70.9	74.8	63.5
真野普門二丁目	47.8	97.2	43.3	38.5
真野普門三丁目	-	99.9	-	33.3
真野大野一丁目	47.1	83.6	71.3	37.7
真野大野二丁目	45.2	98.6	46.2	50.0
学区平均	57.7	89.9	77.6	38.9
出典	1,2	1,2	2	2

(注) 表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

(注1) 市街化区域を対象とした。

(注2) 算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上、市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。

出典 1: 大津湖南都市計画基礎調査 (H30.2) 土地利用現況

2: 資産税データ (R4.4)

- 住宅密集度の学区平均は 57.7 戸/ha で市平均 (全学区の平均) の 59.3 戸/ha より低い。
- 不燃領域率の学区平均は 89.9% で市平均の 93.9% より低い。
- 木造率は真野六丁目 が 84.2% で最も高く、真野普門二丁目 が 43.3% で最も低い。
- 旧耐震木造建物割合は真野佐川町、真野家田町で 80% を超える。一方、真野六丁目の木造建物は旧耐震木造建物割合が 0.0% であり、全て新しい耐震基準に基づいて建築されたものである。
- 木造率の学区平均は 77.6% であり、市平均の 72.7% より高い。また、旧耐震木造建物割合の学区平均は 38.9% であり、市平均の 40.3% より低い。

■ 人口の状況

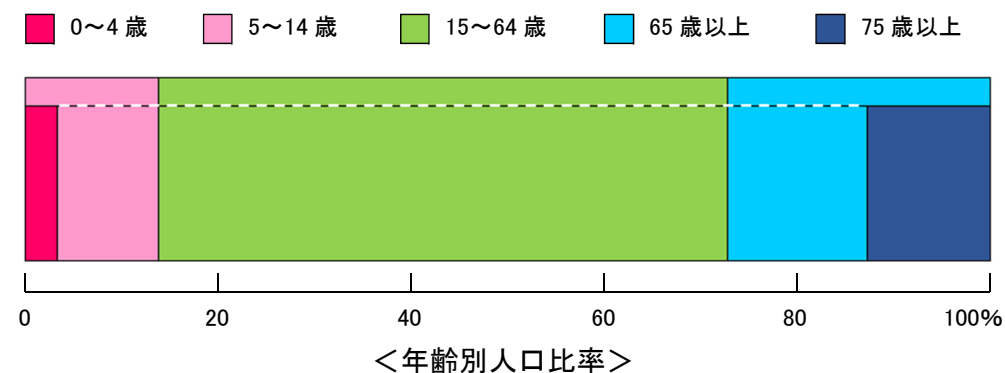
項目	人口等	単位	備考	割合 (%)	出典
学区人口	7,473	人		-	1
年齢別 (0~4 歳)	250	人	学区人口に対する割合	3.3	1
年齢別 (5~14 歳)	783	人	学区人口に対する割合	10.5	1
年齢別 (15~64 歳)	4,405	人	学区人口に対する割合	58.9	1
年齢別 (65 歳以上)	2,035	人	学区人口に対する割合	27.2	1
年齢別 (75 歳以上)	947	人	学区人口に対する割合	12.7	1
世帯数	3,210	世帯		-	2
1 世帯当たり人口	2.3	人/世帯		-	2
要介護認定者	417	人	学区人口に対する割合	5.6	3
身体障害者 (要配慮者)	89	人	学区人口に対する割合	1.2	4
知的障害者 (要配慮者)	17	人	学区人口に対する割合	0.2	4
外国人居住者	74	人	学区人口に対する割合	1.0	5

(注) 1 世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

出典 1: 年齢別・学区別人口統計表 (R4.3.31 現在)、2: 学区別人口・世帯数の年別推移 (R4.3.31 現在)

3: 学区別要介護認定者 (R4.4.30 現在)、4: 大津市データ (R4.3.31 現在)

5: 住民基本台帳情報からの統計 (R4.3.31)



- 人口は真野川沿いの平野・段丘部に集中している。
- 高齢者 (65 歳以上) は 2035 人、乳幼児 (0~4 歳) は 250 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 27.2%、3.3% である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均 (27.2%) と同じであり、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均 (3.9%) より低い。
- 要介護認定者は 417 人 (5.6%)、身体障害者 (要配慮者) は 89 人 (1.2%)、知的障害者 (要配慮者) は 17 人 (0.2%) である。
- 外国人居住者は 74 人 (1.0%) である。



■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 <small>(注1)</small>	11 箇所	1
土石流危険渓流 <small>(注1)</small>	0 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 <small>(注1)(注2)</small>	6 箇所	2
土砂災害警戒区域 <small>(注1)(注2)</small>	16 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） <small>(注1)</small>	2 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） <small>(注1)</small>	0 箇所	3
雪崩危険箇所 <small>(注1)</small>	0 箇所	4
地すべり防止区域 <small>(注1)</small>	0 箇所	5
地すべり危険箇所 <small>(注1)</small>	0 箇所	1
浸水想定区域 <small>(注3)</small> (0.0m~0.5m)	99,768 m ²	6
(0.5m~1.0m)	58,901 m ²	6
(1.0m~2.0m)	40,279 m ²	6
(2.0m~)	19,592 m ²	6
特に重要な水防区域 <small>(注1)</small>	0 箇所	7
重要水防区域 <small>(注1)</small>	1 箇所	7
防災重点農業用ため池 <small>(注1)</small>	4 箇所	8

(注1) 危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。

(注2) 複数の区域をまとめて1つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。

(注3) 浸水想定区域は、琵琶湖の水位がB.S.L. +2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典 1：滋賀県砂防課（R3.7.16） 2：滋賀県砂防課（R3.2）

3：滋賀県森林保全課（R3.11） 4：滋賀県砂防課（H24.12） 5：農林振興課、砂防課（H24.12）

6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）

7：琵琶湖河川事務所（R2.6） 8：大津市産業観光部（R3.12）

<防災上の特性>

- 学区内に土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されている箇所がある。
- 琵琶湖岸では琵琶湖の水位上昇による浸水想定区域が広くみられる。
- 学区東部の低地には、堅田断層が数条に分かれて通過している。この断層が直接活動した場合には、断層の周辺部に大きな地表変位が生じる可能性があるが、直接活動しない場合においても、地震動（地震の揺れ）によって、断層通過部付近では、揺れが増幅して周辺より被害が大きくなる可能性がある。このような現象は兵庫県南部地震時にも見られている。

■ 防災関連施設情報

<指定緊急避難場所・指定避難所>

種類	名称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	真野小学校グラウンド	○	○	○		真野四丁目 6-17
指定緊急避難場所	真野幼稚園グラウンド	○	○	○		真野四丁目 6-27
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	真野市民センター	○	○	○		真野四丁目 6-2
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	真野小学校体育館	○	○	○		真野四丁目 6-17
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	真野幼稚園	○	○	○		真野四丁目 6-27

(注) 指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。

指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。

※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

<市関連機関>

名称	所在地	電話番号
大津市役所	御陵町 3-1	523-1234, 528-2616
真野市民センター	真野四丁目 6-2	572-1164

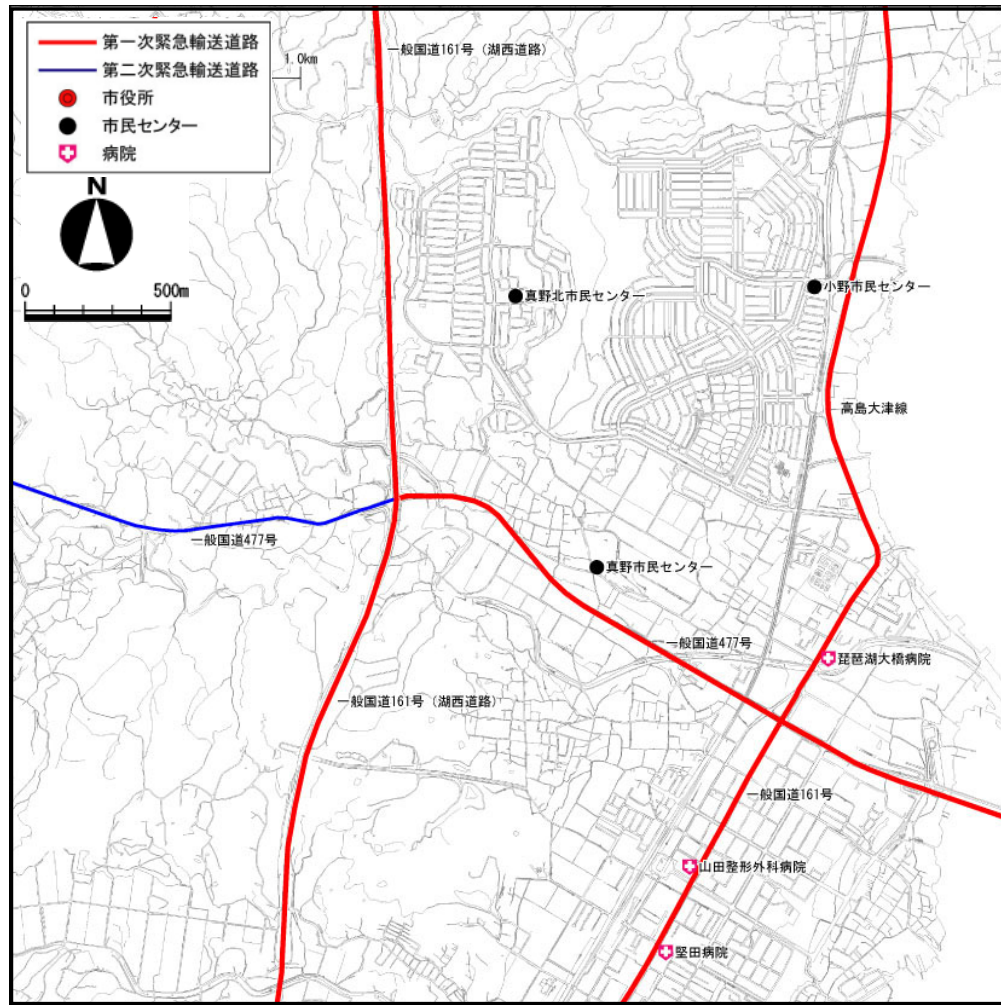
<警察 110>

名称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	打出浜 1-10	522-1231
大津北警察署	真野二丁目 20-23	573-1234
堅田駅前交番	真野一丁目 1-78	573-2600

<消防 119>

名称	所在地	電話番号
大津市消防局	御陵町 3-1	522-0119
北消防署	真野二丁目 23-1	572-0119
真野分団	真野四丁目 6-2	574-3466

<緊急輸送道路>



(注) 緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

<医療施設>

種別	名称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35 522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9 522-4607
病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298 594-8777	
	琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29 573-4321	
	滋賀病院	富士見台 16-1 537-3101	
	滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町 548-2111	

■ 地震災害危険度予測

<地震被害想定結果>

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	死者数			負傷者数			重症者数		
						早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース1	2,430	6,784	1,147	552	1,423	39	27	29	68	47	51	3	2	3
ケース2	2,430	6,784	1,268	538	1,537	47	32	35	68	47	51	3	2	3
ケース3	2,430	6,784	597	652	923	12	9	9	107	70	80	5	3	4

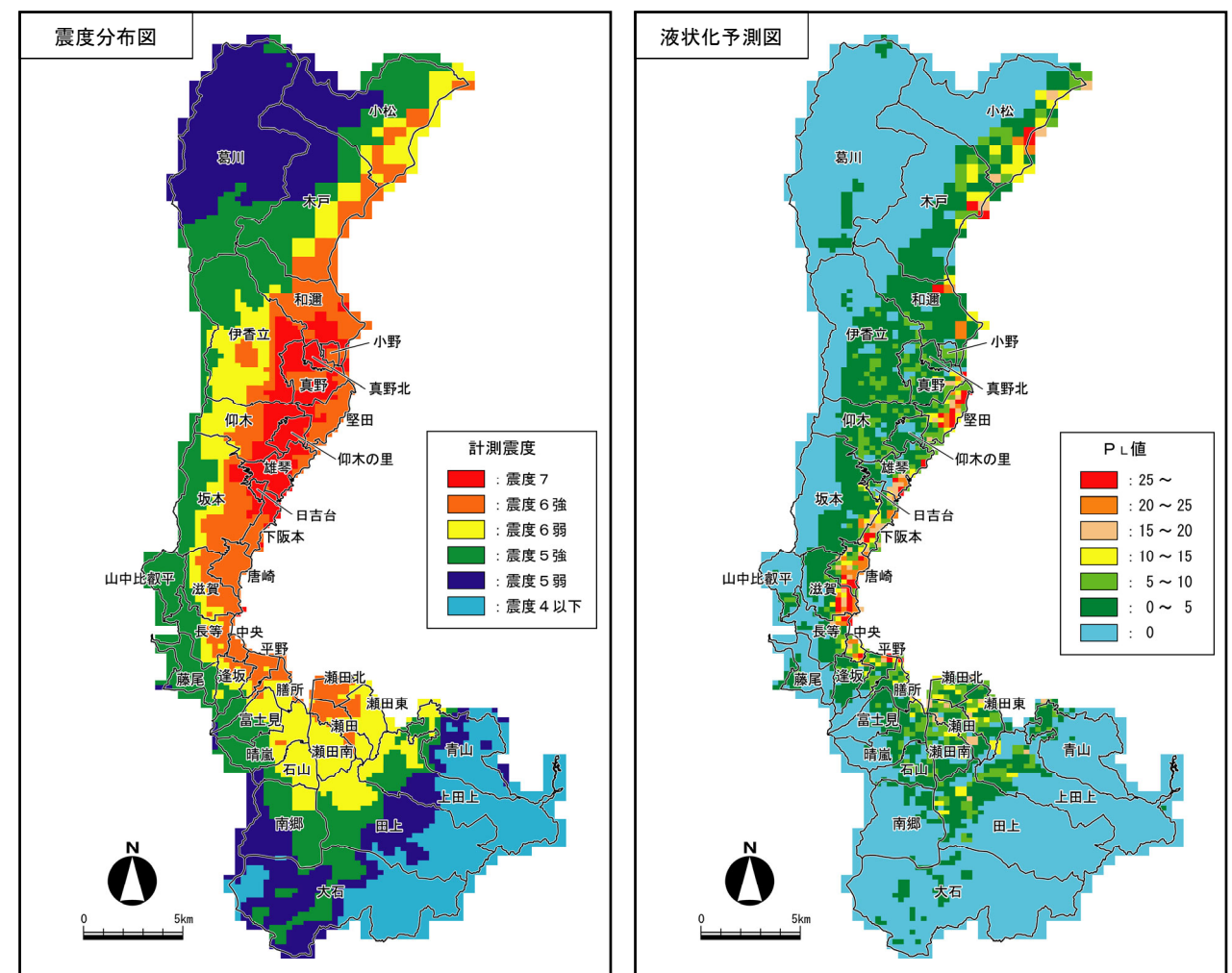
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障 避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース1	1	2	3	1,358
ケース2	1	3	3	1,441
ケース3	0	1	1	997

(注) 表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<震度分布及び液状化予測図>

● 琵琶湖西岸断層帯地震 (ケース2)



出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3) (PL ≥ 10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
PL ≥ 20 激しい液状化)

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書 (H18.1)

